織作 峰子さん（写真家）

小松愛 私が語ります

五感を磨いてくれた場所

枕木のにおい

風が吹くと線路の枕木に塗られたコールタールのにおいがふわっと漂ってくる、そんな環境で育ちました。実家は北陸鉄道小松線の鵜川遊泉寺駅の真ん前でした。「ふるさと」と聞くと、コールタールのにおいが真っ先に思い浮かびます。

実家はお店をやっていて、たばこや塩、切手といった日用品を売っていました。お昼になると、駅員さんが電車の待ち時間を利用して、わが家でお弁当を広げて食べるんです。懐かしい思い出ですね。

鵜川遊泉寺駅跡に桜並木が残っています。実はこの桜、私の曽祖父が植えたんですよ。「うい川古代桜」と呼ばれて、今も地域の皆さんを楽しませているのがとてもうれしく思います。

父は棟梁でした。自宅近くの工場で木材を製材して、漆を塗ったり、墨付けしたり…。ただ見ているだけでしたが、「自分で作る物が残る仕事って素晴らしいな」と子ども心に思いました。写真を仕事にしていますが、父から影響を受けたのは手に職を持つこと、物が残ることだと思います。

小学校に行く道すがら、九谷焼の絵付けの工房も見ることができました。工芸に自然、美しいものを目にする環境がそろっていたんですね。五感を研ぎ澄ますことができたのは、小松に生まれ育ったおかげだと思います。

例えば雪もただ白いだけではなくて、色があって、音があって、においがあるんです。そういうことを無意識のうちに体に刻み込んでいけたのは、写真を撮って作品を作っていく上ですごく大切になっています。

雪といえば、「峰子」の名前も雪とゆかりがあるんですよ。私が生まれた12月の朝、実家から雪を冠した白山があまりにも美しかったそうで、父はその光景から峰子と名付けたんです。

実家の近所に梯川に架かる橋があります。そこから眺める白山が好きですね。春は桜越しに見えますし、田園が広がっているんです。やっぱり、幼い頃から見てきた風景が一番ですね。

おしゃれでシャイな小松人

駅と空港の「線」

金沢の「武家文化」に対し、小松は「町人文化」です。昔からおしゃれな人が多かったですよ。それと、わりとシャイな人が多い気がします（笑）。私も東京で修業した時に「おとなしい」と言われましたが、口数が少ない分、しっかりものを見詰める目が小松の人にはあると思います。

小松は北陸新幹線の小松駅が開業し、すぐ近くには空港もあります。駅と空港をつなぐ「線」をさらに魅力的にすることが絶対に大事ですよ。駅から空港に向かう道沿いには、私が子どもの頃から頑張っている、おしゃれなカフェの先駆者「クッチーナ」もありますから。

小松には大きな可能性を感じます。町人文化の誇りを持って、小松の魅力を広く発信できる気構えの人が一人でも増えていくといいですね。

おりさく・みねこ　小松市出身。国府小、国府中、小松市立女子高（現小松市立高）卒。1981年ミスユニバース日本代表。写真家大竹省二氏と出会い82年入門、87年独立。世界各国の美しい風景や人物の瞬間を撮り続けている。9月に金沢で写真展「光・韻（こういん）」を開催した。大阪芸大写真学科長。